

## 6. むすび

地震調査研究推進本部の「今後の重点的調査観測について（－活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方－）」（平成17年8月策定）に基づき、活断層帯の重点的な調査観測の推進として、平成25年度より「中央構造線断層帯（金剛山地東縁－和泉山脈南縁）における重点的な調査観測」を3カ年計画で開始した。

具体的には、活断層の活動区間を正確に把握するための詳細位置・形状等の調査及び断層活動履歴や平均変位速度の解明のための調査観測、断層帯の三次元的形状・断層帯周辺の地殻構造解明のための調査観測、断層帯周辺における強震動予測の高度化のための研究を行うサブテーマ研究チームを構成し、各々の調査観測研究を進めるとともに、サブテーマ間での情報共有を進めながら、地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、断層帯周辺における地殻活動の現状把握の高度化、及び強震動の予測精度の高度化を目的とし、調査観測を進めてきている。

対象断層帯においては、地震調査委員会による活断層の長期評価や強震動評価のための周辺地域の地下構造モデルが構築されているため、これらの情報を踏まえた効果的な調査観測研究を進めることが必要である。平成25年度は各研究テーマにおける既往研究の情報整理に基づいて調査観測研究を計画・実行した。平成26年度は、各サブテーマの調査観測をすすめるとともに、サブテーマ間での成果の情報共有を進めてきた。サブテーマ2で行ってきている反射法探査結果を地下構造モデルの情報として反映させるといった連携を進めてきている。最終年度である平成27年度は、各サブテーマの調査観測研究を実施し、長期評価及び強震動評価の高度化に資する結果を提供したい。

最後になりましたが、今年度の本重点調査観測を行うにあたり、調査対象地域である和歌山県、和歌山市、岩出市、奈良県、大阪府と関連各機関の皆様、ピット調査・ボーリング調査に協力いただいた皆様に記してお礼申し上げます。